

〔法学新報〕第34卷9（392）号 大正13年9月1日

○国東会 国東は元田先生の号なり先生は中央大学創立者の一人にして且つ多年教壇に立たれ其講筵に侍したる者千を以て

算ふへく先生は現に同大学の評議員たり今回先生の郷人及其教を受けたる諸氏相会して国東会を設くるの議あり其趣意書に曰く、「恭敬以て先輩を推し、信愛以て友に親み、先進後進相倚り相和するは実に人生規範の要諦なりとす吾人の敬慕する国東元田先生は夙に帝国最高学府に業を卒へ、齡二十有余にして幾回か東京弁護士会長の榮職を荷ひ、其名声斯界に噴々たり、明治二十三年帝国議会の開設せらるゝや、挙げられて衆議院議員となり爾来帝国議政に参与すること実に茲に三十又五年、常に忠孝の大道を説き剛健摯実漸進の主義に依り以て憲政の扶植に努め旧陋を斥くると同時に奇矯の俗論を排し、狂瀾に直面して敢然邁進せられつつあり、其間又屢々台閣に列し大政變理の重任に膺られ、其通信大臣となる断行し行政整理をやて通信事務の刷新を図り又明治維（新以）以新來會て成らざりし通信条約を改訂して国権の屈讓を伸へ更に鉄道大臣となるや該省初代の長官として鉄道會計法地方鉄道法等諸般法制の改善電化事業の創設現業従事員待遇の一新等に力を發し就中鉄道敷設法を改正して帝国鉄道網を確立したる如きは其最も顕著なるものなり又臨時外交調査会委員に親任せらるるや仏京平和會議接衝の枢機諮問に參議せらるる等先生の国事に献替せられたるの勲績は天下万人の周ねく知る処にして而も先生は身は持する又謹嚴廉潔實に一世の師表たり先生又詩文を能くす其文を草するや千言立口に成り流麗にして理義極めて徹底す又其賦する所の詩は氣宇高邁而も其時事を慨するや花に月に感慨血を吐かんとするものあり又勸めて後進

子弟の指導誘液<sup>(掖)</sup>に意を注がれ直言訓戒至らざるなし、之れが為め時に或は先生の意を誤解するものあるも之を久ふして始めて先生の厚誼に感じ一層の崇敬を致すに至る世先生を称して古国士の風ありと云ふ宜矣吾人は夙に先生を私淑し其高風を欽仰して敬慕措く能はず頃者同人相謀り茲に国東会を組織し一は以て先生の徳を顕揚し一は以て相親善諧和し以て吾人相互の砥励向上に資せんとす同感の諸賢幸に來り加盟せらるゝあらは此れ独り吾人の至慶のみに止まらざるなり」と去る七月三十日午後四時より先生の旧弁護士事務所の所在地たりし思出多き京橋区銀座一丁目二十一番地桃李軒に於て発会式を挙げ古庄豊氏は發起人を代表して開会の辞を述べ満場の賛同を得て池邊棟三郎氏を座長に推し会則を議定し該会則に依り会長池邊棟三郎副会長秋元春朝幹事古田兼三、岩本英夫、三浦貢、臼井孝雄、森田彌吉、常任幹事古庄豊の諸氏を挙げ次て花井卓藏博士及中村啓次郎氏の演説あり終に元田先生の謙讓なる謝辞あり夫れより宴に入り池邊会長の発声にて一同杯を挙げ元田先生の万歳を祝して散会したり因に国東会仮事務所は四ツ谷区坂町六番地古庄氏方なり